

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

(実施期間：平成 27～32 年度)

代表機関：新潟大学（総括責任者：高橋 姿）

共同実施機関：株式会社タケショー

取組の概要

新潟県の女性研究者の活躍促進を図るために、代表機関である新潟大学がイニシアティブをとり、「上位職登用推進プログラム」「両立支援プログラム」「研究力向上プログラム」を実行することで、連携機関における女性研究者の採用・上位職登用に係る意識改革とマネジメント改革を促進するとともに、女性研究者のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて個々のニーズに応じたテラーメイド支援を提供することで、ライフイベントに妨げられずに継続的研究が行える研究環境を実現し、女性研究者が代表の新たな共同研究を複数創出する。そうすることにより、新潟県の女性研究者の質的保証と量的拡大を促進し、研究の力量を付けた女性研究者が組織に定着して地域産業等の活性化に貢献することを目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長のリーダーシップの下、代表機関が県内の高等教育機関に、共同実施機関が県内の企業に、女性研究者の活躍促進を図る実効性の高い取組を普及させる先導的な役割を果たしており優れた連携体制として評価できる。「女性リーダー研修・管理職研修」、「上位職シャドウイング研修」等の取組により、優れた女性研究者の上位職登用を図り、代表機関においては女性教授比率が目標を上回る 8.5%に上昇し、また、共同実施機関においては女性上位職比率が実施期間終了時の最終目標を上回る 45.5%に上昇したことは評価できる。平成 30 年度からは、ポイント制による人事管理方式の導入により、女性研究者の採用・登用へのポイント配分とインセンティブが計画されており、新たな展開が期待できる。

- ・**目標達成度**：女性研究者の研究力強化や上位職登用を促進するための特色のある取組により、代表機関においては女性教授比率が目標を上回り上昇し、また、共同実施機関においては女性上位職比率が大幅に上昇したことは評価できる。しかしながら、代表機関において、女性研究者在職比率、上位職比率の目標が未達であり、より一層の研究環境整備を進め、優れた女性教員の定着を図ることが望まれる。
- ・**取組**：女性研究者の個々のニーズに対応して支援情報を提供する「テラーメイド支援体制」、連携機関の女性研究者が研究代表となり実施する共同研究を支援する「連携型共同研究スタートアップ支援制度」、「研究力向上セミナー」等、様々なきめ細かな取組を実施したことは評価できる。また、出産・育児・介護を抱える女性研究者のみならず、男性研究者も支援対象とし、

研究補助者の配置を進めたことは男性の意識改革も含めた取組の展開として評価できる。

- **取組の成果**：代表機関においては、理学部で女性限定公募が実施され女性教員（助教）が採用され、また、工学担当の女性准教授が誕生するなど、自然科学系部局において意識啓発が順調に進められたことは評価できる。また、共同実施機関においても上位職女性比率が大幅に上昇しており評価できる。さらに、協力機関である長岡工業高等専門学校においては女性教員在職比率、上位職女性比率が上昇する成果が上がっており取組の波及効果として評価できる。今後は、これまでに構築した県内女性研究者ネットワークを活用し、高等教育機関、研究機関、企業等へ実効性の高い取組を普及させ、県内女性研究者の活躍促進を図ることを期待する。
- **実施体制**：代表機関の学長が「ポジティブ・アクション宣言」を行い、学長裁量経費を用いて財政的措置を実施するなど、学長のリーダーシップの下、本事業が推進されたことは評価できる。また、代表機関と共同実施機関が定期的に「連携協議会」を開催し連携を進めるとともに、県内の高等教育機関や企業等が参加する「連携協議会総会」を開催し、県内全体に波及効果をもたらしたことは評価できる。
- **今後の進め方**：平成30年度から、ポイント制による人事管理方式の導入が計画されており、「女性昇任枠」の創設、「女性限定テニユア・トラック」制度の構築が検討されており、取組の継続性のみならず発展性が担保されており評価できる。今後は、代表機関における自然科学系の女性教員の増加に向け、他機関への転出の原因分析と定着へ向けた環境整備、業績に見合った昇任等の対応策の立案を期待する。